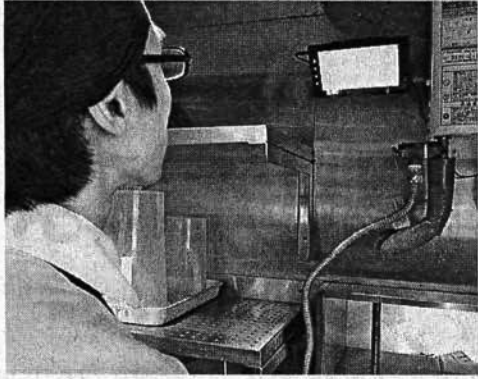


東日本大震災から3度目の夏 節電支援 工夫競う



サッソーは店舗の機器稼働状況もタブレットなどに配信できるようにする(スーパーストックトーキョールミネ北千住店)

サッソー 使用分析、機器ごとに

ピコエイダ 光熱・水道費15%削減

企業や家庭向けの節電支援を手がけるベンチャー企業がサービス内容を進化させている。東日本大震災から3度目の夏を迎え、省エネ対策が普及するなか、顧客を満足させる「ひとひねり」が求められる。節電効果を高める新たな視点を盛り込んだり、電力消費データを解析して店舗運営支援などの新サービスにつなげようとしたりする動きも出てきた。

データ多重活用

中小・ベンチャー企業の節電支援の新サービス・新製品の例

企業名	主な内容
サッソー(東京・渋谷)	小売り・飲食店の機器ごとの電力使用状況を店舗間で逐次比較
ピコエイダ(大阪市)	病院・ホテルの電力・ガス・水道の利用を最適管理
F-tech(堺市)	工場・店舗の蛍光灯の電力消費を30%程度抑える調光装置を開発
みんな電力(東京・港)	家庭の電力使用量の管理サイト開設。ポイント付与で省エネ促す
アイアンドシー・クルーズ(同・港)	家庭用エネルギー管理システムの比較購入サイト開設

「店長さん、あなたのお店、他店よりちょっと食器洗浄機の稼働頻度が高めです」。デジタルガレージグループの投資会社などが出資するシステム開発のサッソー(東京・渋谷、石橋秀一代表)は小売・飲食チェーン向けに7月にも、電力使用状況を前日実績や他店舗と逐次比較しながら節電を促すサービスを始め、スーパーストックチェーン「スーパーストックトーキョー」が試験利用を始めた。分電盤などに専用器を付けて食洗機や空調機など機器ごとの稼働状況を計測する。電力使用量と使用頻度などを推計したデータに基づき分析し、使い方の助言を店舗に置

いたタブレット(多機能携帯端末)などに自動表示する。「店全体でなく機器ごとの使い方を店舗間で比べられれば、実効性のある節電対策を打てる」(外食チェーン)顧客を1年間で10倍の500店に増やす計画だ。導入店を増やして電力使用データから陥りやすい無駄使いのパターンなどを抽出し、店舗の効率運営を支援するサービスにもつなげる考えだ。

エネルギー管理システムのピコエイダ(大阪市、堀武社長)は、病院やホ

テル向けに電気・ガス・水道の使用を最適制御するサービスを提供する。「全国1500施設のデータを収集・分析して制御プログラムを随時改良し、精度を高めている」(堀宣副社長)病院などでは厨房や風呂向けに水を循環させるポンプの電気代がかさみがちなことに着目。まず節水でポンプの電気使用量を抑える。空調については、気象庁のデータを独自のシミュレーションソフトで解析して1時間ごとの気象変化を予測

し、きめ細かく調整する。光熱・水道費を平均15%減らすことができ、300床規模の病院の場合、年間1千万円の費用削減効果があるという。機器導入と運用サポートの費用は同420万円で済む。大阪府内の病院の1割が同サービスを採用しており、今後九州などにも拡大する。2013年9月期の売上高は4億5千万円を見込む。省エネ製品開発のみならず、生活パターンの合った省エネ商品や節電支援サービスを開発する狙いもある。

人が無料で会員登録し、毎月の電気使用量などを記録できるサービスを近く始める。初年度50万人の登録をめざす。「メリットがないと消費者は動かない」(大石英司社長)とみて、サイトに電気使用量や節電の実践例を書き込むとポイントを付与し、それをためると商品と交換できる仕組みにした。集まった消費者の取り組みや嗜好などを分析し、生活パターンに合った省エネ商品や節電支援サービスを開発する狙いもある。